

疫学に関する調査研究班  
分担・各個研究報告

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）  
進行性腎障害に関する調査研究  
疫学に関する調査研究班分担研究報告書

「IgA 腎症予後調査 10 年目」

分担研究者 遠藤正之（東海大学医学部・腎内分泌代謝内科）  
共同研究者 若井建志（愛知県がんセンター・疫学予防）  
川村 孝（京都大学・保健管理センター）

研究要旨

IgA 腎症の腎機能予後を予測することを目的に、1995 年の全国疫学調査で把握された患者について予後調査を実施した。調査は主治医への郵送法で 1997 年（2 年後）、1999 年（4 年後）、2002 年（7 年後）に行い、現在 10 年後の生命および腎機能予後を調査している。これまで計 3 回の調査ですでに死亡や慢性透析療法への導入が判明した患者を除外した 2,214 人が対象である。患者個人票の郵送は 2005 年 9 月より開始し、2006 年度にデータ解析を行う。

A. 研究目的

わが国における IgA 腎症患者の予後と進行因子を明らかにするために、1995 年の IgA 腎症全国疫学調査で把握された患者の 10 年後の予後調査を行った。

B. 研究方法

1995 年に全国の病院から抽出した内科・腎臓内科・小児科で、腎生検により IgA 腎症と診断された 5,324 人のうち所定のルールで 3,409 人を選択した。今回は、これまで計 3 回の追跡ですでに死亡や慢性透析療法への導入が判明した患者を除外した 2,214 人の生命及び腎機能予後について、主治医宛てに患者個人票を郵送し調査した。

C. 結果

患者個人票の郵送は 2005 年 9 月より開始した。予後要因に関する臨床データは医療記録から収集し、初回腎生検所見の分類は進行性腎障害に関する調査研究班の基準によった。

E. 結論

2006 年度にデータ解析を行い、わが国における IgA 腎症患者の予後と進行因子を明らかにしたい。

F. 健康危険情報

なし

G. 知的所有権の出現登録状況

なし

H. 研究発表  
なし

「慢性腎疾患（CKD）患者の動脈硬化（arterial stiffness）」

分担研究者 遠藤 正之（東海大学医学部 助教授）  
共同研究者 須藤 博、仁科 良、呉 瓊

**研究要旨**

慢性腎疾患（CKD）における動脈硬化に関与する臨床的因子を baPWV（脈波伝導速度）法を用いて非糖尿病腎疾患について解析した。PWV 増加に関与するのは BMI、高血圧、高血圧の期間、尿蛋白量、LVH であった。多変量解析では拡張期血圧と高血圧の期間が最も PWV の増加に関与していた。CKD 患者の動脈硬化さらには心血管合併症の予防には血圧の管理が最も重要であると考えられる。

**A. 研究目的**

近年、慢性腎疾患そのものが心血管疾患のリスクファクターである事が明らかになっている。本研究では非糖尿病 CKD 疾患における動脈硬化に関与する臨床的因子を baPWV（脈波伝導速度）法を用いて解析した。

**B. 研究方法**

対象：東海大学腎代謝内科通院中の CKD 患者 129 名（慢性腎炎症候群 111 名、腎硬化症 18 名）

方法：動脈硬化(stiffness)を baPWV 法で測定し、年齢、身長、体重、BMI、血圧、蛋白尿、高血圧の期間、腎機能（推定 Ccr）、尿蛋白量、ステロイド服用期間、LVH の有無との関連を解析した。

**(研究の倫理面への配慮)**

患者氏名その他プライバシーに関わる項目は発表していない。また発表においては個人を特定しえない形式である。

**C. 結果**

1. 年齢基準値より PWV 増加ありが 69 名、増加なしが 58 名であった。
2. PWV 増加に関与するのは BMI、高血圧、高血圧の期間、尿蛋白量、LVH であった（表 1）。
3. 多変量解析では拡張期血圧と高血圧の期間が最も PWV の増加に関与していた。
4. 腎機能、ステロイドの使用と PWV 増加に相関はなかった。

#### D. 考察

慢性腎疾患そのものが将来の心血管合併症のリスクであることが明らかになっており、疫学調査では、腎機能の低下とともに心血管合併症の頻度が増加する。今回 CKD 患者のいかなる因子が動脈硬化の危険因子であるか非糖尿病 CKD 患者を対象に PWV 法を用いて検討した。予想に反し、腎機能そのものとの相関なく、高血圧の期間が PWV の増加に関与していた。これは非腎疾患患者における心血管疾患のリスクと同じ傾向であり、腎疾患においても血圧の管理が最も重要であると考えられる。またステロイドの使用期間も PWV 増加に関係しておらず、動脈硬化促進に関与して居ないことが示唆された。

瓊：慢性腎疾患（CKD）患者の動脈硬化進展機序。日本腎臓学会東部部会, 2005.

#### E. 結論

CKD 患者の動脈硬化さらには心血管合併症の予防には血圧の管理が最も重要であると考えられる。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 知的所有権の出現登録状況

なし

#### H. 研究発表

##### 1. 論文発表

なし

##### 2. 学会発表

遠藤正之、須藤 博、仁科 良、呉

表 1 各因子と PWV 増加との相関

	Pearsonの相関係数
・ 年齢	.075 (.404)
・ 身長	-.064 (.482)
・ 体重	.163 (.067)
・ BMI	.230 (.009)
・ 収縮期BP	.554 (.000)
・ 拡張期BP	.621 (.000)
・ 脈圧	.213 (.190)
・ 高血圧の期間	.390 (.000)
・ 推定Ccr (Cockcroft)	-.031 (.731)
・ 尿蛋白量	.261 (.004)
・ ステロイド使用	-.057 (.524)
・ LVH	.352 (.000)

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）  
各個研究報告書

「IgA 腎症に対する口蓋扁桃摘出とステロイドパルス療法の検討」

研究協力者 今井裕一（愛知医科大学腎臓・膠原病内科 教授）

共同研究者 三浦直人 吉野雅文 鈴木啓介 北川 渡 山田晴生

**研究要旨**

IgA腎症の治療法として、扁桃摘出＋ステロイドパルス療法が有効であることが報告されているが、治療6ヶ月で尿所見を判定した場合に、完全寛解率は、53.3%であった。完全寛解に影響を与える因子として、性別（女性）のほかに、①尿異常出現から治療までの期間、②高血圧の合併、③尿蛋白量も候補としてあがる可能性がある。prospective studyを行う際には、これらの因子を十分考慮する必要がある。

**A. 研究目的**

IgA 腎症に対する扁桃摘出パルス療法は堀田らによって有用性が報告されたが、現在、「進行性腎障害調査研究班(富野康日己班長)」でも検討されている。今回、扁桃摘出パルス療法6ヵ月以降の尿所見が評価できる15例を検討し、prospective studyに向けての問題点を整理する。

**B. 研究方法**

2003年4月から2005年11月まで扁桃摘出パルス療法を施行した21例(男性9例、女性12例)のうち、治療後6ヵ月経過した15例(男性7例、女性8例、平均年齢30.5歳)を対象とした。尿所見の判定は、寛解(CR)：尿異常の消失、不完全寛解(PR)：一度寛解したがその後出現したもの、蛋白尿、血尿

とも軽快しているが、消失しないもの、無効(NR)：蛋白尿、血尿とも軽快しないものとした。

**【患者背景と結果】**

15例の平均尿蛋白量0.74g/日、平均Ccr92.4ml/分、高血圧5例であった。全体のCR率は8/15=53.3%であった。CR群8例中女性7例、尿蛋白量平均0.54g/日、平均Ccr100.3ml/分、高血圧1例、尿異常出現から治療までの期間は57.75ヶ月(約4年10ヶ月)であった。一方、PR群7例中男性6例、尿蛋白量平均1.07g/日、平均Ccr96.6ml/分、高血圧4例、尿異常出現から扁桃摘出パルス療法までの期間は84ヶ月(7年)であった。

**【結語】**

IgA 腎症に対する扁桃摘出パルス療法の効果としては、尿所見は全例軽快してい

るが、完全寛解率は 53.3%であった。従来の治療法での尿所見完全寛解率は、10%前後であることを考えるとわめて有望な治療法である。ただし、完全寛解に至った群と不完全寛解群を比較すると、性別(女性： $p<0.005$ )、その他、①尿異常出現から治療までの期間、②高血圧の合併、③尿蛋白量は、それぞれ  $p=0.07$  であり症例数を増やすと有意になる可能性がある。prospective study では、これらの因子を十分考慮した群別を行う必要がある。

#### E. 結論

IgA 腎症に対する扁摘パルス療法の尿所見完全寛解率は 53.3%であった。完全寛解に影響する因子として性別(女性)、①尿異常出現から治療までの期間、②高血圧の合併、③尿蛋白量があるので、コントロール試験に際しては、これらに配慮した割付が必要である。

#### F. 健康危険情報

特になし

#### G. 知的所有権の出現登録状況

特になし

#### H. 研究発表

1. Komatsuda A, Maki N, Wakui H, Ohtani H, Hatakeyama T, Yasuda T, Nakamoto Y, Imai H, Sawada K  
Development of systemic  $\lambda$ -light chain amyloidosis in a patient with  $\gamma$ -heavy chain deposition disease during long-term follow-up. Nephrol Dial Transplant 2005;

20: 434-437

2. Kitagawa W, Miura N, Yamada H, Nishikawa K, Futenma A, Imai H  
The increase of antiglomerular basement antibody following pauci-immune-type crescentic glomerulonephritis. Clin Exp Nephrol 2005; 9: 969-73

3. 山田晴生、足立哲夫、山田裕一、三竿幸子、鈴木啓介、渡辺一司、北川 渡、三浦直人、楊 朝隆、佐久間正人、西川和裕、普天間新生、今井裕一  
培養メサンギウム細胞の産生 extracellular superoxide dismutase (EC-SOD)と細胞外基質 日腎会誌 2005; 47: 32-37

4. Imai H. Medical decision-making in membranous nephropathy: how to use limited clinical research evidence in patient management. Clin Exp Nephrol 2005; 9: 206-211

#### 2. 学会発表

Watanabe H, Yoshino M, Kitagawa W, Yamada H, Imai H. Immunological Screening of the Auto-antibody Recognizing Cogan Syndrome Related Peptide In Systemic Vasculitis. 3rd World Congress of Nephrology (Singapore), 2005

難病特別研究班  
分担研究報告

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）  
進行性腎障害に関する調査研究  
難病特別研究班分担研究報告書

「全身性自己免疫疾患の遺伝的背景：Fcgr2b 遺伝子の関与」

分担研究者 西村裕之

桐蔭横浜大学・医用工学部 人間科学工学センター

研究要旨

(NZB x NZW) F1 マウスは加齢に伴いループス腎炎を示すSLEモデルである。このF1マウスとその親系マウスでは、超遠心精製ウシ血清アルブミンによって通常誘導される抗原特異的な免疫寛容が見られない。正常C57BL/6系とNZB系のF2 intercrossマウスにおいて、この現象を規定する遺伝子座を検索した。その結果、第1染色体と第3染色体上に連鎖を示す遺伝子座が見出された。これらの領域とヒト染色体上において示されたSLE感受性領域とはsyntenyの関係があり、第1染色体上の責任遺伝子の候補はFcgr2b遺伝子であった。NZB系マウスではFcgr2b遺伝子の制御領域の多型に基づいて、胚中心B細胞でFcgr2bの発現レベルが異常に低いことが自己寛容破綻を基礎づけていると考えられる。

A. 研究目的

全身性エリテマトーデス（SLE）はループス腎炎をはじめとする多様な病態表現を示す全身性自己免疫疾患である。複雑なSLE病態の共通の基盤は自己の構成成分と自己抗体による免疫複合体形成であり、本来は外来抗原特異的なB細胞クローンにおいて起こるべき、抗体遺伝子のclass switchとaffinity maturation、さらには抗体産生細胞への分化が自己反応性B細胞クローンに起きることである。SLEモデル動物においてこのような自己寛容破綻に直結した表現型に注目した遺伝連鎖解析を行えば、発症の基盤となる責任遺伝子を明らかにできると

期待される。そこで、遺伝的多因子が関与するSLEモデル、(NZB x NZW)F1マウスにおいて、自己寛容破綻に密接に関連すると考えられる量的表現型に着目して責任遺伝子の連鎖解析を行った。

B. 研究方法

ウシIgG (BGG)水溶液を超遠心分離(100,000g)によって精製して凝集物を除去し、特異的免疫寛容原(Deaggregated BGG: DBGG)とした。正常C57BL/6系とNZB系のF2 intercrossマウス(n=221)において、免疫寛容破綻を規定する遺伝子座を検索した。動物実験については、桐蔭横

浜大学動物実験委員会の倫理審査を経て承認を得ている。

### C. 結果

正常 C57BL/6 系マウスは免疫寛容原、DBGG の腹腔内投与(10gm)によって BGG 特異的な免疫寛容を誘導したが、NZB 系マウスではこの免疫寛容誘導がみられなかった。(C57BL/6 x NZB)F2 intercross マウス(n = 221)においては、DBGG による免疫寛容誘導能は量的形質であり、正常な免疫寛容を示す個体から、NZB 系同様、免疫寛容を誘導しない個体まで多様であった(図 1)。個々の F2 マウスについて、ゲノムに散在するマイクロサテライト DNA 多型を調べ、NZB マウスの免疫寛容誘導能の欠如を規定する遺伝子座を MapManager QTX プログラムを用いて検索した結果、第 1 染色体テロメア近傍の *D1Mit15* に "highly significant linkage" 第 3 染色体上 *D3Mit109* に "significant linkage" 基準を満たす連鎖を見出した(図 2)。*D1Mit15* 近傍に存在する *Fcgr2b* 遺伝子を欠損した C57BL/6 マウスは DBGG によって BGG 特異的な免疫寛容誘導を示さず(図 3)、第 1 染色体上の責任遺伝子は *Fcgr2b* であることが示唆された。

### D. 考察

*Fcgr2b* 遺伝子のコードする FcgrIIB は抑制性の ITIM (Immunoreceptor Tyrosine-based Inhibitory Motif)を持つ Fc 受容体であり、B 細胞受容体からのシグナルのフィードバック制御に関

与し、B 細胞の自己寛容誘導に重要な役割を果たしていると考えられている。*Fcgr2B* 遺伝子はプロモーター領域に多型を有し、特に NZB 系ではこの系統にユニークな配列の欠損に基づいて、germinal center B 細胞における FcgrIIB 表現のレベルが異常に低い。このことが、NZB 系マウスの自己免疫疾患感受性に重要な役割を果たしていると考えられる。

近年ヒト SLE 家系を対象としたゲノムワイドの連鎖解析が国際的に試みられているが、複数の報告において共通するのは 1q23 領域との連鎖であって、本研究で検出されたマウス第 1 染色体テロメア領域と syntenic な関係にある領域である。ヒトにおいては、責任遺伝子について一致した見解が得られていないが、最近ヒト SLE と *FCGR2B* 遺伝子のプロモーター領域の多型が連鎖不平衡にあるとの報告がなされており、少なくとも一部の SLE サブセットにおいて、同様の機序が疾患感受性に寄与していると推察される。

### E. 結論

Lupus 腎炎を示す全身性自己免疫疾患モデルである New Zealand 系マウスにおいて、*Fcgr2b* 遺伝子の発現制御の異常が自己寛容の破綻に重要な役割を果たしていることが示された。

### F. 健康危険情報

なし

## G. 知的所有権の出現登録状況

なし

## H. 研究発表

### 1. 論文発表

1) Nakamura K, Nishimura H, Hirose S.

Correlation of aggression with serum IgM level in autoimmune-prone NZB mice. *Dev Brain Res* **159**, 145-148, 2005

2) Suzuki H, Suzuki Y, Yamanaka T,

Hirose S, Nishimura H, Toei J, Horikoshi S, Tomino Y. Genome-wide scan in a novel IgA nephropathy model identifies a susceptibility locus on murine chromosome 10, in a region syntenic to IGAN1 on chromosome 6q22-23. *J Am Soc Nephrol* **16**, 1289-1299, 2005

3) Okamoto H, Nishimura H and

Kamatani N. A role for TARC/CCL1, a CC chemokine in New Zealand mice. *Rheumatology* **44**, 819-828, 2005

### 2. 学会発表

1) 大辻希樹, 白岩和香苗, 鶴井博理, 大辻奈穂美, 西村裕之, 白井俊一, 広瀬幸子, 「ループス腎炎発症における G-CFS の役割」, 第 35 回日本免疫学会総会・学術集会(2005).

2) 白岩和香苗, 大辻希樹, 林青順, 塚本和行, 鶴井博理, 西村裕之, 木下勝之, 広瀬幸子, 「(NZB X NZW)F1 マウスにおける SLE 発症へ

の estrogen の影響」, 第 35 回日本免疫学会総会・学術集会(2005).

3) Fujii T, Jikumaru Y, Ikeda K, Nishimura N, Xiu Y, Nakamura K, Toei J, Kodera Y, Inada Y, Hirose S, Shirai T, Nishimura H. “Genome-wide mapping of genes involved in defective immune tolerance in New Zealand Black mice” 第 35 回日本免疫学会総会・学術集会(2005).

4) 藤井琢磨 他 「New Zealand Black マウスにおける免疫寛容誘導能欠如の遺伝支配 — PEG 修飾抗原を用いた研究」 第 20 回バイオハイブリッド研究会 (2005)

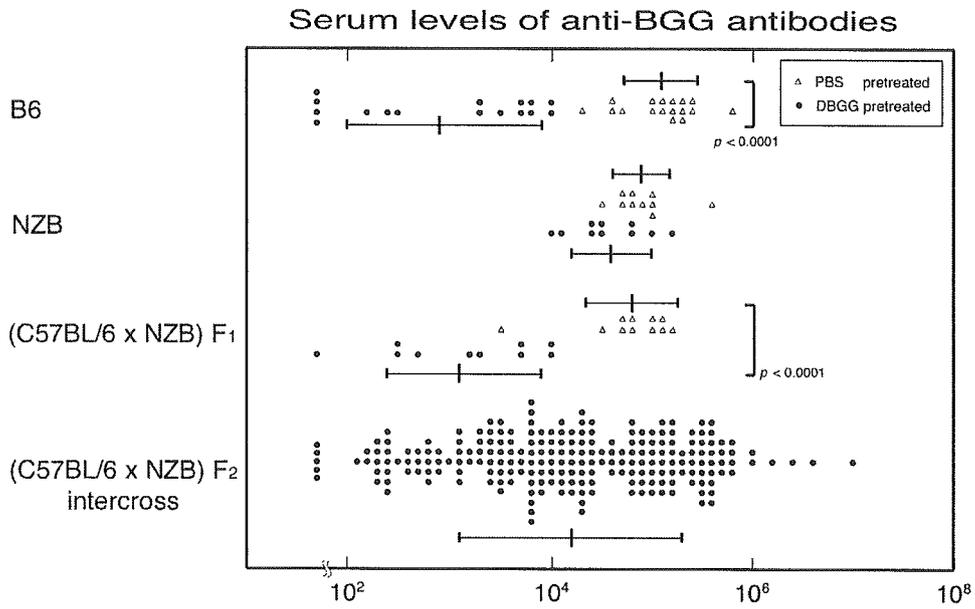


図1 超遠心精製ウシ血清アルブミン(DBGG)の投与によって誘導したウシ血清アルブミン(BGG)特異的な免疫寛容誘導の程度をマウス系統間で比較した結果を示す。正常 C57BL/6 系(B6)マウスは DBGG の前投与によって、免疫寛容を誘導するが、自己免疫系である NZB 系ではこの現象が見られない。(C57BL/6 x NZB)F<sub>2</sub> マウスは免疫寛容誘導能について多様である。

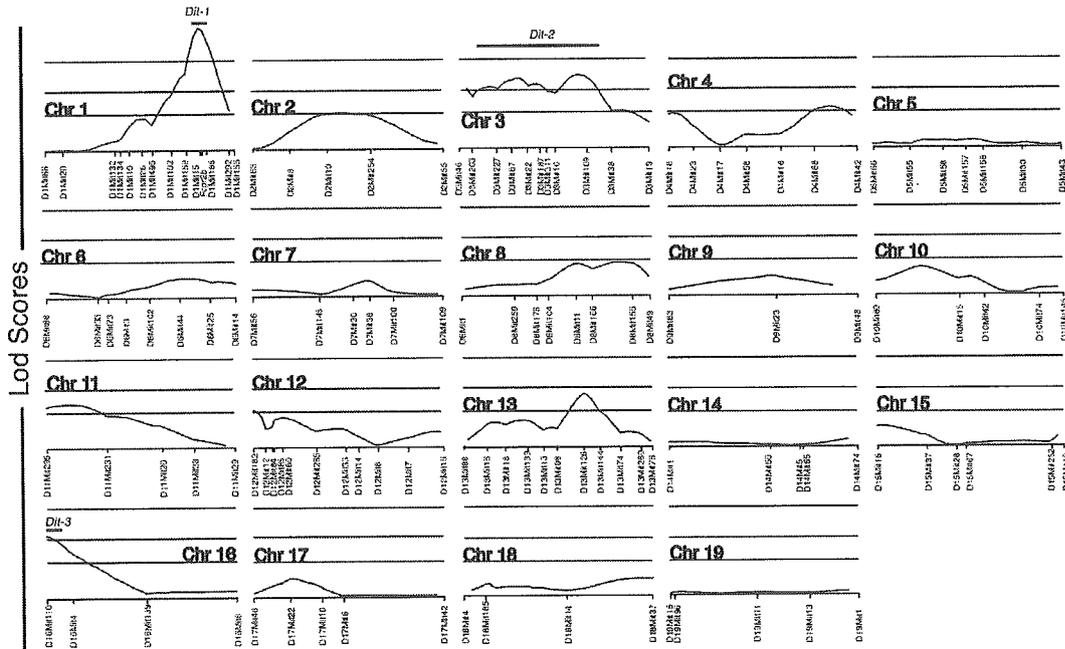


図 2 (C57BL/6 x NZB) F2 intercross マウス(n = 221)における、免疫寛容の不全を規定する責任遺伝子のゲノムワイドマッピングの結果 第 1 染色体テロメア領域に”highly significant linkage”の基準を超える連鎖が見出された他、第 3 染色体上の広い範囲で、”significant linkage”の基準を超える連鎖を見出した。第 1 染色体テロメアのマーカー *D1Mit15* に密接に連鎖した責任遺伝子の候補は ITIM モチーフを持ち、末梢 B 細胞のフィードバック制御に関わる *Fcgr2b* 遺伝子である。

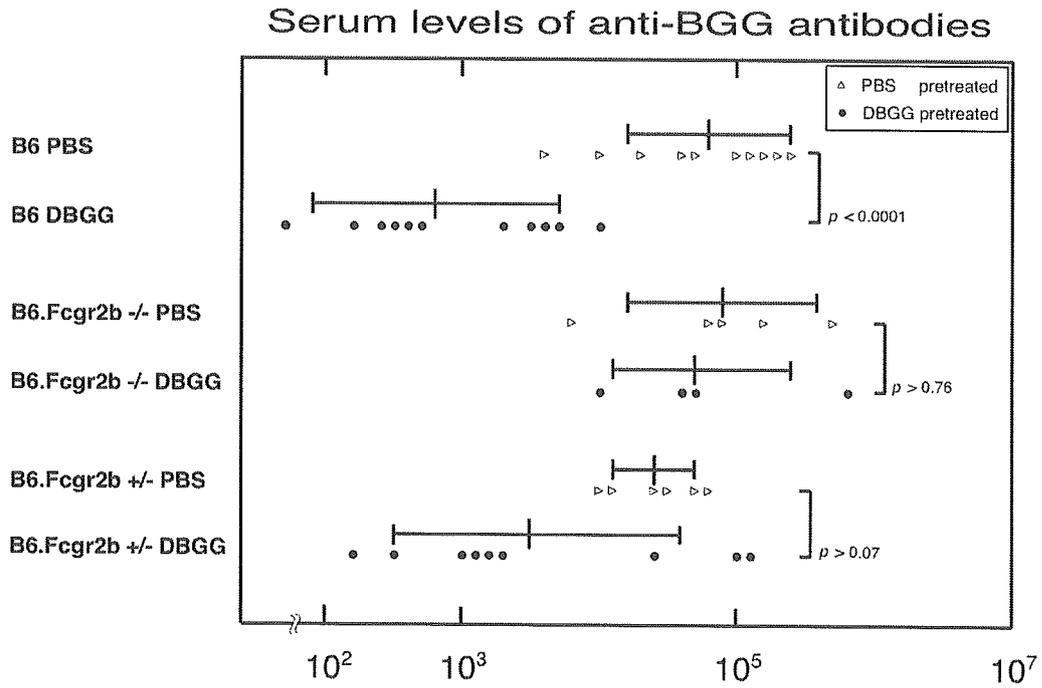


図3 *Fcgr2b* を欠損させたマウス B6. *Fcgr2b* <sup>-/-</sup>マウスは NZB マウスと同様、DBGG の前投与によって BGG 特異的な免疫寛容を誘導しなかった。この事実は、*Fcgr2b* 遺伝子のプロモーターの配列多型によって、germinal center B 細胞上の *FcgrIIB* 表現が異常に低いことが NZB マウスの自己免疫疾患感受性を形成しているという仮説を強く支持した。

## 研究成果の刊行に関する一覧表(平成17年度)

研究者名 論文・著書名

- ・富野 康日己 日本人における糸球体濾過量(GFR)推定式の比較検討
- ・富野 康日己 腎臓の免疫応答の分子機構
- ・富野 康日己 Role of mucosal immunity dependent on GATA-3 in glomerular IgA deposition.
- ・富野 康日己 Role of receptor for advanced glycation end-products and signalling events in advanced glycation end-product-induced monocyte chemoattractant protein-1 expression in differentiated mouse
- ・富野 康日己 FcγRIIa-131R allele and FcγRIIIa-176V/V genotype are risk factors for progression of IgA nephropathy.
- ・富野 康日己 Reactive oxygen species-mediated signaling pathways in angiotensin II-induced MCP-1 expression of proximal tubular cells.
- ・富野 康日己 プロパージン、H因子、I因子
- ・富野 康日己 Pioglitazone attenuates TGF-β(1)-induction of fibronectin synthesis and its splicing variant in human mesangial cells via activation of peroxisome proliferator-activated receptor (PPAR)γ.
- ・富野 康日己 Using protein/creatinine ratios in random urine.
- ・富野 康日己 IgA腎症
- ・富野 康日己 Genome-wide scan in a novel IgA nephropathy model identifies a susceptibility locus on murine chromosome 10, in a region syntenic to human IGAN1 on chromosome 6q22-23.
- ・富野 康日己 Relationship between renal anemia and prognostic stages of IgA nephropathy.
- ・富野 康日己 A report with consensus statements of the International Society of Nephrology 2004 Consensus Workshop on Prevention of Progression of Renal Disease, Hong Kong, June 29, 2004.
- ・富野 康日己 腎疾患
- ・有村 義宏 ANCA関連腎炎-病因:(2)環境
- ・有村 義宏 ANCA関連腎炎-検査(1)ANCA測定の意義
- ・有村 義宏 病因論と血液検査
- ・有村 義宏 全身性血管炎(ANCA関連血管炎)
- ・有村 義宏 急速進行性腎炎
- ・有村 義宏 ANCA関連腎炎
- ・有村 義宏 ANCA関連血管炎—顕微鏡的多発血管炎の臨床像・予後の変遷およびMPO-ANCA関連血管炎におけるミズリピン治療についての検討
- ・今井 裕一 The increase of antiglomerular basement membrane antibody following pauci-immune-type crescentic glomerulonephritis
- ・今井 裕一 Medical decision-making in membranous nephropathy: how to use limited clinical research evidence in patient management
- ・今井 裕一 培養メサングウム細胞の産生Extracellular Superoxide Dismutase (EC-SOD)と細胞外基質
- ・岩野 正之 Fibroblast-specific protein 1 is a specific prognostic marker for renal survival in patients with IgA
- ・岩野 正之 All-trans-Retinoic acid inhibits the development of mesangial proliferative glomerulonephritis in interleukin-6 transgenic mice.
- ・岩野 正之 Tubulointerstitial macrophage infiltration in a patient with hypokalemic nephropathy and primary Sjogren's syndrome.
- ・片瀧 律子 Usefulness of glomerular score as a prognosticator and a guide for treatment in IgA nephropathy
- ・片瀧 律子 Remember Typhoid Fever as a Cause of Acute Nephritic Syndrome Even in Japan
- ・片瀧 律子 How quickly can a renal transplant pathological diagnosis be completed? The demands of clinicians and the objections of pathologists
- ・片瀧 律子 二次性糸球体硬化症
- ・木村 健二郎 Urinary liver-type fatty acid binding protein as a useful biomarker in chronic kidney disease.
- ・木村 健二郎 Liver type fatty acid binding protein attenuates renal injury induced by unilateral ureteral obstruction
- ・小山 哲夫 急速進行性糸球体腎炎、先端医療シリーズ31 腎臓病 診断と治療の最前線
- ・小山 哲夫 第1章 ANCA関連腎炎の概念と定義 疫学
- ・小山 哲夫 第4章 ANCA関連腎炎の管理・治療,(1)ステロイド剤 治療薬剤:
- ・小山 哲夫 第5章 ANCA関連腎炎のガイドライン ANCA関連腎炎治療ガイドライン
- ・小山 哲夫 微熱 全身倦怠感が愁訴の高齢女性に認めた腎機能異常
- ・小山 哲夫 Crescentic glomerulonephritis associated with renal cell carcinoma after cancer immunotherapy.
- ・小山 哲夫 糸球体腎炎の病態と治療
- ・小山 哲夫 多発動脈炎とその類縁疾患
- ・小山 哲夫 Apheresis for MPO-ANCA-associated RPGN-indications and efficacy: Lessons learned from Japan nationwide survey of RPGN.
- ・小山 哲夫 【本邦診療ガイドラインの特徴と問題点 ガイドラインを読むためのガイド】急速進行性腎炎症候群の診療指針
- ・小山 哲夫 わが国の急速進行性糸球体腎炎の治療におけるアフエレーシス療法の位置づけ
- ・小山 哲夫 ANCA関連血管炎
- ・斉藤 喬雄 Impact of lipoprotein glomerulopathy on the relationship between lipids and renal diseases

雑誌・書籍

- 日本腎臓学会誌 48(2):62-6,2006
- 日本臨床 64 Suppl 2:341-4, 2006
- Nephrology (Carlton). 2005 Dec;10 Suppl 6:A441.
- Nephrol Dial Transplant. 2006 Feb;21(2):299-313.
- Nephrol Dial Transplant. 2005 Nov;20(11):2439-45.
- Antioxid Redox Signal. 2005 Sep-Oct;7(9-10):1261-8.
- 日本臨床 63 Suppl 7:77-9, 2005
- Cell Biol Int. 2005 Jun;29(6):422-8.
- J Clin Lab Anal. 2005;19(4):160-6.
- 日本臨床 63 Suppl 5:516-20, Review.2005
- J Am Soc Nephrol. 2005 May;16(5):1289-99.
- J Clin Lab Anal. 2005;19(2):80-3.
- Kidney Int Suppl. 2005 Apr;(94):S2-7, Review.
- 日本臨床, 63(1) : 75-79, 2005.
- 最新医学別冊 新しい診断と治療のABC31, 2005
- 最新医学別冊 新しい診断と治療のABC31, 2005
- シミュレーション内科 腎疾患を探る, 2005
- 腎と透析 59巻増刊号 2005
- 初学者から専門医までの腎臓学入門 2005
- 腎と透析 60巻3号, 2005
- 臨床リウマチ17巻4号, 2005
- Clin Exp Nephrol 9:69-73, 2005
- Clin Exp Nephrol 9:206-211, 2005
- 日本腎臓学会誌 47:32-37, 2005
- Kidney Int. 68(3), 2005.
- Nephron Exp Nephrol 100(1), 2005
- Clin Nephrol 64(5), 2005
- NEPHROLOGY 10, A437, 2005
- Internal Medicine 44, 1207-1208, 2005
- Clinical Transplantation Suppl 14, Vol 19: 86-96, 2005
- 腎と透析59, 48-52, 2005
- Mol Cel Biochem. in press, 2006
- in submission
- 先端医療技術研究所 東京 70-75 2005
- 新しい診断と治療のABC31 ANCA関連腎炎、長澤俊彦編 15-23 2005
- 新しい診断と治療のABC31 ANCA関連腎炎、長澤俊彦編 141-149, 2005
- 新しい診断と治療のABC31 ANCA関連腎炎、長澤俊彦編 205-215, 2005
- シミュレーション内科 腎疾患を探る.今井裕一編、永井書店.152-156, 2005
- J Nephrol. 18(4):436-41, 2005
- 日本内科学会雑誌94(3):550-557, 2005
- 日本内科学会雑誌94(3):864-870,2005
- J Clin Apher. 20(4):244-51,2005
- 成人病と生活習慣病(1347-0418);35巻12号 Page1393-1397(2005.12)
- 日本アフエレーシス学会雑誌、25(1)、12-20,2006
- 腎と透析、60(2): 252-256,2006
- Am J Kidney Dis 47(2): 199-211, 2006

- ・斉藤 喬雄 Carnitine palmitoyltransferase II deficiency due to a novel gene variant in a patient with rhabdomyolysis and ARF
- ・斉藤 喬雄 難治性ネフローゼ症候群に対するLDLアフェレシスの効果—陰性荷電LDLとシクロソリン薬物動
- ・斉藤 喬雄 全身性疾患と腎病変:アミロイドーシス
- ・斉藤 喬雄 腎生検病理診断の臨床への応用
- ・斉藤 喬雄 原発性巣状分節性糸球体硬化症
- ・斉藤 喬雄 注目される腎関連蛋白—Apolipoprotein E
- ・斉藤 喬雄 薬物療法の基本—成人
- ・斉藤 喬雄 Lipoprotein glomerulopathy
- ・斉藤 喬雄 難治性ネフローゼ症候群(成人例)の診療指針
- ・斉藤 喬雄 腎疾患のメカニズムと治療の最前線を探る—糸球体腎炎、ネフローゼ症候群について—
- ・佐藤 博 Predictors of undiagnosed renal artery stenosis among Japanese patients with risk factors of Steroid resistance in prolonged type I membranoproliferative glomerulonephritis and accelerated disease remission after steroid withdrawal.
- ・佐藤 博 2型糖尿病患者における血中IP-10濃度の検討.
- ・佐藤 博 LCAT活性が著明に変動した一例.
- ・柴田 孝則 Wistar-Kyotoラット実験的腎障害におけるアジュバント前投与の影響について
- ・柴田 孝則 ANCA関連腎炎の病理・病態生理 病因:(3)動物モデル
- ・柴田 孝則 ANCA関連腎炎・血管炎と腎不全
- ・高市 憲明 他 Pelvic insufficiency fracture related to autosomal dominant polycystic kidney disease: a Case
- ・高市 憲明 他 Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease Showing Rupture of a Lateral Ventral Hernia Following Paralytic Ileus
- ・高市 憲明 他 症候性多発性肝腎嚢胞症の治療—血管内治療は外科治療に代わりうるか—
- ・高市 憲明 他 透析患者への外科的アプローチ、手術適応と術後管理、多発性嚢胞腎に対する腎動脈塞栓術
- ・高市 憲明 他 透析患者への外科的アプローチ、手術適応と術後管理、多発性嚢胞肝に対する肝動脈塞栓術
- ・高市 憲明 他 目でみる症例、多発性嚢胞腎
- ・高市 憲明 他 腎泌尿器疾患のわかりやすい画像診断—正常画像と異常画像、多発性嚢胞腎
- ・高市 憲明 他 疾患31. 腹部膨満患者が来院したが?
- ・高市 憲明 他 腫大した多発性嚢胞肝(Polycystic liver)に対する肝動脈塞栓術の試み
- ・高市 憲明 他 腫大した多発性嚢胞腎に対する腎動脈塞栓術の試み
- ・高市 憲明 他 症候性多発性肝腎嚢胞症の治療—第50回日本透析医学会教育講演より—
- ・高市 憲明 他 透析療法これはこまったぞ、どうしよう! . 13. 腎嚢胞が腫大して困る。どうしよう?
- ・高市 憲明 他 透析療法これはこまったぞ、どうしよう! . 多嚢胞化萎縮腎がみつかった。どうしよう?
- ・土谷 健 CD2AP expression in a renal ischemia/reperfusion injury model and analysis of its related genes using overexpression and RNA interference technique.
- ・土谷 健 左右軸決定遺伝子inv(inversion of embryonic turning)の機能解析
- ・西 慎一 アミロイド腎症・ネフローゼ症候群のすべて
- ・西 慎一 The morphological compensatory change of peritubular capillary network in chronic allograft
- ・西村 裕之 Correlation of aggression with serum IgM level in autoimmune-prone NZB mice.
- ・西村 裕之 Genome-wide scan in a novel IgA nephropathy model identifies a susceptibility locus on murine chromosome 10. in a region syntenic to IGAN1 on chromosome 6a22-23.
- ・西村 裕之 A role for TARC/CCL1, a CC chemokine in New Zealand mice.
- ・西村 裕之 Phenylalanine ammonia-lyase modified with polyethylene glycol: Potential therapeutic agent for phenylketonuria.
- ・西村 裕之 アトピー性皮膚炎と黄色ブドウ球菌感染
- ・西村 裕之 SLE感受性遺伝子
- ・西村 裕之 Quercetin, a flavonoid, inhibits the proliferation, differentiation, and mineralization of osteoblasts in Gain-of-function polymorphism in mouse and human Ltk: implications for the pathogenesis of systemic lupus erythematosus.
- ・西村 裕之 Transgene-mediated hyper-expression of IL-5 inhibits autoimmune disease but increases the risk of B cell chronic lymphocytic leukemia in a model of murine lupus.
- ・西村 裕之 Dissection of the role of MHC class II A and E genes in autoimmune susceptibility in murine lupus models with intragenic recombination.
- ・新田 孝作 他 新しい診断と治療のABC「ANCA関連血管炎」血液浄化療法
- ・新田 孝作 他 遺伝性ポドサイト腎症 常染色体劣性・優性遺伝性家族性ネフローゼ症候群
- ・新田 孝作 他 Intracellular mislocalization of mutant podocin and correction by chemical chaperones
- ・花岡 一成 多発性嚢胞腎の遺伝子治療の可能性
- ・浜崎 智仁 Effect of ω-3 fatty acid-containing phospholipids on blood catecholamine concentrations in healthy volunteers: a randomized, placebo-controlled, double-blind trial.
- ・浜崎 智仁 The effect of fish oil on physical aggression in schoolchildren -a randomized, double-blind, placebo-controlled trial.
- ・浜崎 智仁 Effect of Eicosapentaenoic Acids on Oxidative Stress and Plasma Fatty Acid Composition in Patients with Lupus Nephritis.
- ・浜崎 智仁 Levels of omega-3 fatty acid in serum phospholipids and depression in patients with lung cancer.
- Am J Kidney Dis 45(3):596-602, 2005
- ICUとCCU 29別冊:S115-S117, 2005
- 日内会誌 94(5):891-895, 2005
- 腎生検病理診断標準化への指針(日本腎臓学会・腎病理診断標準化委員会編). 2005. pp35-37
- 腎と透析 59(1):43-47, 2005
- 腎と透析 59(3):43-47, 2005
- 腎と透析 59増刊:214-217, 2005
- 腎と透析 59増刊:570-573, 2005
- 成人病と生活習慣病 35(12):1399-1401, 2005
- 血圧 13(2):213-217, 2006
- Hypertens Res. 28: 237-242, 2005
- Clin Exp Nephrol, 9: 62-68, 2005
- 日本腎臓学会誌, 47: 524-530, 2005
- The Lipid, 16: 505-510, 2005
- 昭和医学会誌 65: 55-67, 2005
- 最新医学別冊「新しい診断と治療のABC31. ANCA関連腎炎」65-72. 最新医学社, 2005
- 腎不全診療のコツと落とし穴 74-75, 中山書店, 2005
- Am J kidney Dis, e103-111, 2005
- Internal Medicine 44(4): 311-318, 2005
- 日本透析医学会雑誌, 38(1), 24-26, 2005
- P225-231, 2005, MC メデカ出版
- P225-231, 2005, MC メデカ出版
- 内科Vol 96, No3. 558-562, 2005
- 腎と透析, Vol 59, No2, P 277-287
- 腎疾患を探る(シミュレーション内科), 永井書店, P206-209. 2005.
- C-ストッパーコイル、臨床使用レポート、Vol.2. Page2
- C-ストッパーコイル、臨床使用レポート、Vol.2. Page3
- 透析会誌38(12):1749-1761, 2005
- 中外医学社, P286-290, 2005
- 中外医学社, P291-294, 2005
- Am J Nephrol 25:373-381, 2005.
- 日腎会誌 46:676-684, 2004.
- 腎と透析・59・2005
- Clin Transplant・19・2005
- Dev Brain Res 159, 145-148,2005
- J Am Soc Nephrol 16, 1289-1299, 2005
- Rheumatology 44, 819-828,2005
- Amino Acids 29, 283-287, 2005
- 臨床免疫 44:667, 2005
- 「免疫2005」, Molecular Medicine, 41 臨時増刊号(岸本忠三 編), 334 (2005).
- Eur. J. Pharmac. 485: 89-96, 2004.
- Human Molec. Genet. 13: 171-179, 2004.
- Eur. J. Immunol. 34: 2740-2749, 2004
- Proc. Natl. Acad. Sci. USA 101: 13838-13843, 2004.
- 最新医学社 168-174, 2004
- 腎と透析(0385-2156)55巻5号 Page747-752(2003.11)
- Histochem Cell Biol: 119(3): 257-64, Mar 2003
- 腎と透析59巻3号, 2005
- Nutrition, 21;705-710, 2005.
- J Nutr Biochem, 16;163-171, 2005.
- in vivo, 19;879-882, 2005.
- Br J Cancer, 93;1329-1333, 2005.

- ・浜崎 智仁 Aggression, Fish Oil, and Noradrenergic Activity.  
 ・浜崎 智仁 Dietary supplementation with n-3 polyunsaturated fatty acids attenuates the depression of food-motivated behavior during zymosan-induced peritonitis.  
 ・浜崎 智仁 Effect of docosahexaenoic acid-containing food administration on symptoms of attention-deficit/hyperactivity disorder—a placebo-controlled double-blind study  
 ・浜崎 智仁 (letter) The Effect of Docosahexaenoic Acid-containing food administration on symptoms of attention-deficit/hyperactivity disorder—a placebo-controlled double-blind study.  
 ・浜崎 智仁 Suicide attempt and n-3 fatty acid levels in red blood cells: A case control study in China.  
 ・浜崎 智仁 Dietary n-3 fatty acids selectively attenuate LPS-induced behavioral depression in mice.  
 ・浜崎 智仁 Effect of dietary enrichment with n-3 polyunsaturated fatty acids (PUFA) or n-9 PUFA on arachidonate metabolism in vivo and experimentally induced inflammation in mice.  
 ・林 松彦 Microarray analysis of a reversible model and an irreversible model of anti-Thy-1 nephritis.  
 ・林 松彦 Anion-exchange blocker enhances cytoplasmic vacuole formation and cell death in serum-deprived mouse kidney epithelial cells in mice.  
 ・林 松彦 Divergent effects of unilateral and subtotal nephrectomy on insulin sensitivity in rats.  
 ・林 松彦 Apical localization of renal K channel was not altered in mutant WNK4 transgenic mice.  
 ・林 松彦 NF- $\kappa$ B-dependent increase in intrarenal angiotensin II induced by proteinuria.  
 ・林 松彦 Progressive adipocyte hypertrophy in aquaporin-7-deficient mice: adipocyte glycerol permeability as a novel regulator of fat accumulation.  
 ・林 松彦 Musculin/MyoR is expressed in kidney side population cells and can regulate their function.  
 ・林 松彦 Defective water and glycerol transport in the proximal tubules of AQP7 knockout mice.  
 ・林 松彦 Intrarenal injection of bone marrow-derived angiogenic cells reduces endothelial injury and mesangial cell activation in experimental glomerulonephritis.  
 ・林 松彦 Cellular insulin resistance in Epstein-Barr virus-transformed lymphoblasts from young insulin-resistant Japanese men.  
 ・東原 英二 Calcium channel blocker versus Angiotensin II receptor blocker in autosomal dominant polycystic kidney disease.  
 ・東原 英二 多発性嚢胞腎の高血圧治療  
 ・東原 英二 19.泌尿器科疾患 嚢胞性腎疾患  
 ・東原 英二 特集 腎臓とRAS II. 腎臓におけるRASの臨床応用 常染色体優性多発性嚢胞腎治療におけるアンジオテンシンII受容体拮抗薬  
 ・東原 英二 XII. 治療法 4. 多発性嚢胞腎(常染色体優性多発性嚢胞腎、ADPKD)の治療展望  
 ・東原 英二 IV. 腎臓 多発性嚢胞腎の診断基準・病型分類・重症度 特集:内科疾患の診断基準・病型分類・  
 ・東原 英二 Chapter1 慢性腎不全の原因疾患別病態と診断 多発性嚢胞腎による慢性腎不全  
 ・東原 英二 常染色体優性多発性嚢胞腎-アンジオテンシン II 受容体阻害薬(ARB)とカルシウムチャンネル阻害薬の腎保護作用の比較-  
 ・東原 英二 多発性嚢胞腎患者の高血圧治療にアンジオテンシン変換酵素拮抗薬(ACEI)とアンジオテンシン受容体拮抗薬(ARB)は有効か  
 ・東原 英二 Part1 腎不全の保存療法 2.慢性腎不全の病態別治療指針 4.多発性嚢胞腎。  
 ・榎野 博司 ループス腎炎の新しい病理診断  
 ・榎野 博司 ループス腎炎のISN/RPS改定分類  
 ・榎野 博司 全身性エリテマトーデスにみられる血管病変  
 ・榎野 博司 ループス腎炎の新しい分類  
 ・榎野 博司 ループス腎炎の分類改定  
 ・榎野 博司 ループス腎炎病理診断の新しい分類  
 ・榎野 博司 ループス腎炎の予後決定因子  
 ・榎野 博司 腎疾患におけるステロイドの使用法  
 ・榎野 博司 ループス腎炎の病態と治療  
 ・榎野 博司 腎血管炎をきたす疾患  
 ・榎野 博司 改訂されたループス腎炎WHO分類  
 ・榎野 博司 Mesangial cell Fas ligand: Upregulation in human lupus nephritis and NF- $\kappa$ B-mediated expression in cultured human mesangial cells  
 ・榎野 博司 Systemic lupus erythematosus associated with cytomegalovirus infection  
 ・松本 紘一 Elevated macrophage migration inhibitory factor (MIF) levels in the urine of patients with focal glomerular sclerosis  
 ・松本 紘一 Uremic toxins absorbed by AST-120 promote tubular hypertrophy and interstitial fibrosis in  
 ・松本 紘一 Oral adsorbent prevents reduction of anionic sites of the glomerular basement membrane in diabetic nephropathy  
 ・松本 紘一 Prolonged protective effect of short daily hemodialysis against dialysis-induced hypotension  
 ・松本 紘一 Nested polymerase chain reaction for assessing the clinical course of tuberculous meningitis  
 ・松本 紘一 Synthetic pyrrole-imidazole polypeptide inhibits expression of the human transforming growth factor  
 ・松本 紘一 Serum mannose-binding lectin levels in maintenance hemodialysis patients:  
 ・松本 紘一 Anasarca improved by extracorporeal ultrafiltration through an internal shunt in a case of severe haemophilia B with inhibitor and steroid-resistant nephrotic syndrome  
 ・松本 紘一 Development of gene silencing pyrrole-imidazole polyamide targeted to the TGF- $\beta$ 1 promoter for treatment of progressive renal disease  
 ・御手洗 哲也 ネフローゼ症候群, IgA腎症などの腎疾患におけるステロイド療法  
 ・御手洗 哲也 分子腎臓病学—分子生物学的アプローチと分子病態生理学—  
 Nutrients, Stress, and Medical Disorders. 245-252,  
 Biol. Pharm. Bull, 28;1291-1293, 2005.  
 Eur J Clin Nutr. 58:467-473, 2004.  
 Eur J Clin Nutr. 58:838, 2004.  
 Biol Psychiat. 56:490-496, 2004.  
 Physiol Behav. 81:605-613. 2004.  
 Biol Pharm Bull. 27:319-323, 2004.  
 Kidney Int. in press.  
 Cell Biol Int. 2006; 30(1): 93-100.  
 Ren Fail. 2005; 27(4):451-7.  
 Biochem Biophys Res Commun. 2005; 332(3): 750-5.  
 Kidney Int. 2005; 68(2): 464-73.  
 J Biol Chem. 2005; 280 (16): 15493-6.  
 J Cell Biol. 2005; 169(6): 921-928.,  
 Am J Physiol Renal Physiol. 2005; 289(6): F1195-200  
 J Am Soc Nephrol. 2005; 16(4): 997-1004.  
 Metabolism. 2005; 54(3): 370-5.  
 Nephron Clin Pract 99:c18-c23, 2005.  
 腎疾患・透析 最新の治療2005-2007 25-27, 2005  
 今日の治療指針2005 pp.530-531, 2005.  
 Angiotensin Research (2(1):71-75, 2005  
 Annual Review2005腎臓 pp226-235, 2005.  
 内科増大号 95(6): 1238-1240, 2005.  
 ファーマナビゲーター慢性腎不全・透析編 pp58-79. 2004.  
 腎と透析 57(1) : 35-39, 2004. 7  
 腎臓 27(2) : 76-81, 2004.10  
 腎不全治療マニュアル pp.44-53, 2004.  
 Annual Review腎臓 2005  
 内科95巻3号, 2005  
 リウマチ科 34巻1号, 2005  
 Molecular Medicine 42巻5号, 2005  
 日内会誌93巻12号, 2004  
 日腎会誌46巻5号, 2004  
 成人病と生活習慣病34巻6号, 2004  
 臨牀と研究81巻5号, 2004  
 リウマチ科31巻3号, 2004  
 リウマチ科31巻5号, 2004  
 リウマチ科31巻6号, 2004  
 Clin Exp Nephrol 8:196-205;2004  
 Scand J Rheumatol 33:58-59;2004  
 Clin Exp Immunol 139(2):338-347;2005  
 Kidney Blood Press Res 28:8-13;2005  
 Nephron Exp Nephrol 99: e56-e62;2005  
 Kidney Blood Press Res 28: 68-76, 2005  
 Neurology 64: 1789-1793, 2005  
 J Pharmacol Exp Ther 315: 571-575, 2005  
 Nephron Clin Pract 102: c93-c99, 2005  
 Haemophilia 11: 103-105, 2005  
 J Am Soc Nephrol 17: 422-432, 2006  
 総合臨床・54(7)・2005  
 日本臨床64増刊号2・2006

- ・御手洗 哲也 巣状糸球体硬化症—成人  
腎と透析 臨時増刊号・2005
- ・宮崎 正信 Tissue-Specific Expression of Renin-Angiotensin System Components in IgA Nephropathy. Am J Nephrol.25(1):1-12, 2005
- ・宮崎 正信 Role of cyclophilin B in activation of interferon regulatory factor-3. J Biol Chem ;280(18):18355-60, 2005
- ・宮崎 正信 Mizoribine induces remission of relapsed ANCA-associated renal vasculitis. Nephrol Dial Transplant (online)
- ・宮崎 正信 Nephronophthisis in two siblings. Clin Exp Nephrol. Dec;9(4):320-5. 2005
- ・宮崎 正信 Role of atrophic changes in proximal tubular cells in the peritubular Nephrol Dial Transplant. Aug;20(8):1559-65. 2005
- ・宮崎 正信 deposition of type IV collagen in a rat renal ablation model. 日本内科学会誌94(5);925-929, 2005
- ・宮崎 正信 〈腎臓に対する専門医の立場からのコメント:慢性腎疾患〉 血圧12(1); 114-115, 2005
- ・宮崎 正信 特集「病氣と薬の説明ガイド 2005」 腎炎(急性・慢性) 薬局56増刊号; 602-612, 2005
- ・宮崎 正信 CASE STUDY 1.脱水の診断と治療 臨床医31(6); 686 - 690, 2005
- ・宮崎 正信 §4 カリウム濃度の異常 輸液・水電解質異常 専門医にきく最新の臨床 中外医学社;78-99, 2005
- ・宮崎 正信 2章 腎尿路疾患患者への一般的なアプローチ ②どういうときに腎尿路疾患を疑うか—糸球体疾患を疑うとき レジデントのための腎疾患診療マニュアル医学書院; 37- 41, 2005
- ・宮崎 正信 4章 原発性糸球体腎疾患患者へのアプローチ①病歴, 臨床像による鑑別診断 ②蛋白量, 腎機能 レジデントのための腎疾患診療マニュアル 医学書院; 173- 205, 2005
- ・宮崎 正信 の評価と検査, 治療計画 ③慢性腎炎症候群・ネフローゼ症候群の診断と治療
- ・宮崎 正信 IV. 腎疾患 12.ループス腎炎 14.アミロイドーシス 内科疾患診療マニュアル 中外医学社 ;481-
- ・宮崎 正信 The Expert Update Meeting- VALUEを臨床にどう応用するのか—〈腎臓に対する専門医の立場からのコメント:慢性腎疾患〉 血圧12(1); 114-115, 2005
- ・武曾 恵理 Intravenous immunoglobulin (IVIg) therapy in MPO-ANCA related polyangiitis with rapidly progressive glomerulonephritis in Japan. Jpn J Infec Dis 57(5):S17-18, 2004
- ・武曾 恵理 Clinical Efficacy of Intravenous Immunoglobulin for Patients with MPO-ANCA Nephron Clin Pract. 102(1):c35-
- ・武曾 恵理 Associated Rapidly Progressive Glomerulonephritis. c42 [Epub ahead of print] Sep 19. 2005
- ・武曾 恵理 MPO-ANCA関連血管炎・腎炎に対する免疫グロブリン (IVIg) 療法 医学のあゆみ 215(9):759-761, 2005
- ・武曾 恵理 MPO-ANCA陽性血管炎に対する経静脈的大量グロブリン (IVIg) 療法 医学のあゆみ 214(1):113-119, 2005
- ・武曾 恵理 MPO-ANCA 関連腎炎再発症例における免疫グロブリン大量療法 (IVIg) 前後の免疫動態 Pharma Medica 23(5):94-96, 2005
- ・横山 仁 Involvement of extracellular signal-regulated kinase and p38 in human diabetic nephropathy. Am J Kidney Dis 45: 54-65, 2005
- ・横山 仁 Macular abnormalities and optic disk anomaly associated with a new PAX2 missense mutation. Am J Ophthalmol 139: 203-205, 2005
- ・横山 仁 腎生検病理診断標準化への指針(日本腎臓学会・腎病理診断標準化委員会編). 2005, pp24-30, 腎生検病理診断標準化への指針(日本腎臓学会・腎病理診断標準化委員会編). 2005, pp152- 155, 医学のあゆみ215: 511-515, 2005
- ・横山 仁 腎と透析(臨時増刊) ネフローゼ症候群のすべて. 2005. pp368-372 Internal Med 44:779-780, 2005
- ・横山 仁 腎生検依頼書の書き方・成人
- ・横山 仁 膜性腎症の組織分類 Membranous nephropathy J Am Soc Nephrol 16:1703-1710, 2005
- ・横山 仁 薬物性腎障害診断のアプローチ Medical Practice 23:382-388, 2006
- ・横山 仁 膜性増殖性糸球体腎炎—成人領域 腎と透析 臨時増刊号「ネフローゼ症候群のすべて」 59:291-293.2005
- ・吉村 吾志夫 MPO ANCA-related nephritis associated with membranous glomerulonephropathy. 臨床医 31:752—753, 2005
- ・吉村 吾志夫 Heparan sulfate of perlecan is involved in glomerular filtration. 腎疾患・透析最新の治療2005—2007 136—138.2005
- ・吉村 吾志夫 腎障害の進行と尿の異常
- ・吉村 吾志夫 アルブミン製剤とγ-グロブリン製剤
- ・吉村 吾志夫 アルブミン製剤の使い方とその注意点は? 透析療法と合併症対策ハンドブック 150—156.2005
- ・頼岡 徳在 多発性骨髄腫に伴う腎症 看護技術臨時増刊号 51:101-104,2005
- ・頼岡 徳在 肺機能障害とその対策 専門医に聞きたいコメディカルのための糖尿病・糖尿病性腎症Q&A101 96—97, 2005
- ・頼岡 徳在 急性腎不全 専門医に聞きたいコメディカルのための糖尿病・糖尿病性腎症Q&A101 156—157, 2005
- ・頼岡 徳在 高脂血症の治療の有用性 臨床透析6月増刊号 21:65—71, 2005
- ・頼岡 徳在 糖尿病性腎症・腎不全と虚血性心疾患 透析医療における感染症予防・治療マニュアル 89—91, 2005
- ・頼岡 徳在 高脂血症マーカー 腎不全診療のコツと落とし穴 98—101, 2005
- ・頼岡 徳在 院内感染予防のための個別予防策 最新介護福祉全書12 医学一般・公衆衛生 122-糖尿病で腎不全にならないために—その管理上の問題点と対策 77—79, 2006
- ・頼岡 徳在 保存期腎不全診療における経口吸着薬投与の実際 今日の治療指針 465—466, 2006
- ・頼岡 徳在 糸球体腎炎 循環のplus v10.5:4.9-12,2005
- ・頼岡 徳在 腎症管理上のさまざまな問題点 臨床透析 21(1):99—106,2005
- ・頼岡 徳在 高カルシウム血症 糖尿病と透析療法 Ⅷ合併症対策 (6)脂質管理—とくに具体的な指標 医学のあゆみ 214:1051—1056, 2005
- ・頼岡 徳在 糖尿病と透析療法 Ⅷ合併症対策 (6)脂質管理—とくに具体的な指標 透析医療における感染症予防・治療マニュアル 89—91, 2005
- ・頼岡 徳在 腹膜透析—現状における課題と今後の展望 ネフローゼ症候群のすべて 114—117, 2005.
- ・頼岡 徳在 血液凝固機能異常 Nephrology Frontier4:25—30, 2005
- ・頼岡 徳在 内科から見た腹膜透析の対策と治療 炎症と免疫14:133—135, 2006
- ・頼岡 徳在 IgA腎症(予後不良群)に対するミゾリビンの効果 Nephron Clin Pract 99:78-85,2005
- ・頼岡 徳在 Serum cross-linked terminal telopeptide of type I collagen for evaluation of renal osteodystrophy in hemodialysis patients Kidney International 67:1126-1135,2005
- ・頼岡 徳在 Angiotensin II induces fibronectin expression in human peritoneal mesothelial cells via ERK1/2 and p38 MAPK

<ul style="list-style-type: none"> <li>・頼岡 徳在</li> <li>・頼岡 徳在</li> <li>・頼岡 徳在</li> <li>・頼岡 徳在</li> <li>・和田 隆志</li> <li>・和田 隆志</li> </ul>	<p>Hepatitis C virus infection in 2744 hemodialysis patients followed regularly at nine centers in Hiroshima during November 1999 through February 2003</p> <p>Suberoylanilide hydroxamic acid enhances gap junctional intercellular communication via acetylation of histone containing connexin 43 gene locus.</p> <p>Successful Use of Icodextrin in Elderly Patients on Continuous Ambulatory Peritoneal Dialysis.</p> <p>TGF-<math>\beta</math>1 induced by high glucose is controlled by angiotensin-converting enzyme inhibitor and angiotensin II receptor blocker on cultured human peritoneal mesothelial cells.</p> <p>MCP-1/CCR2-dependent loop for fibrogenesis in human peripheral CD14-positive monocytes.</p> <p>Involvement of extracellular signal-regulated kinase (ERK) and p38 in human diabetic nephropathy</p>	<p>Journal of Medical Virology 76:498-502,2005</p> <p>Cancer Res 65(21):9771-9778,2005</p> <p>Advances in Peritoneal Dialysis, Vol.21,2005</p> <p>Peritoneal Dialysis International 25:483-491</p> <p>J Leukoc Biol Jan 13, 2006, Epub ahead of print</p> <p>Am J Kidney Dis 45: 54-65, 2005</p>
--	---	--